＜空白行＞

津久戸大橋第１橋の設計・施工

＜空白行＞

津久戸建設(株)　　正会員　工修　○津久戸　一郎

津久戸建設(株)　　　　　　　　　　飯田橋　太郎

神楽坂建設(株)　学生会員　　　　　神楽坂　花子

＜空白行＞

キーワード：この行にキーワードを3～4つ，１行に収まるように記載してください。

＜空白行＞

１．はじめに

このファイルは，プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウムへの投稿原稿作成時に，頁数や図表配置をわかりやすくするためのテンプレートです。原稿作成にご利用ください。

報告の原稿は，PDFファイルで提出して頂きます。**ファイルサイズは 2.0 ＭＢ以内とし，印刷した場合のページ数がＡ４判・４ページとなるよう原稿を作成してください**。これを超えた原稿は受付けられません。また，投稿するファイルはPDF形式とし，圧縮ツールは使用しないでください。なお，Adobe Reader8.0以降のバージョンを用いて，執筆者の意図したとおりにPDFファイルの原稿が印刷されることを確認してください。文字化けやフォント化け等の事例がありましたので，特殊文字などは使用しないように留意し，PDFデータ作成後に必ず原稿を確認してください。

PDF化にあたっての解像度の設定は制約を設けません。上記のファイルサイズ以内に納まる限り，執筆者の自由とします。また，原稿はカラーで作成して頂いて構いませんが，印刷版論文集は白黒印刷のため，白黒印刷で出力しても明瞭に確認できる配色にしてください。

さらに，編集の障害となりますので，PDFファイルにパスワードの設定は絶対に行わないでください。このテンプレートは，著者3名が投稿する場合の例を示します。連名者は講演者を含めて最大4名までです。会員の場合のみ会員区分を記入し，非会員の場合は空白としてください。ページ設定は，本文の文字数が，45文字／行×42行／ページです。

２．原稿タイトル

原稿タイトルは中央配置，ゴシック12ptとし，全角35字以内としてください。二段配置，半角文字，商品および工法名は使用しないでください。サブタイトルを付けられる場合は，サブタイトルも含めて35文字以内としていただき，サブタイトルの前後には“－”を付けてください。たとえば，「津久戸大橋第１橋の設計・施工－ＩＣＴを使用した〇〇対策－」などです。なお，サブタイトルは必須ではありません。

３．見出し

見出しは，「１．大見出し」，「１．１　中見出し」，を基本とし，これ以下は「(1)　」を用います。さらに細かく分けたい場合には，「１．１．１　小見出し」を用いてから，「(1)　」を使用してください。これ以上の細分化を不可とします。見出しは左詰めとし，フォントはゴシック10.5ptとします。見出しには，商品および工法名は使用しないでください。

　１．大見出し　　　　　　　　　　　　　　　　　　　１．大見出し

　１．１　中見出し　　さらに細分化したい場合には　　１．１　中見出し

　(1)　小見出し　　　　　　　　　　　　　　　　　 　１．１．１　小見出し

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　(1)　見出し

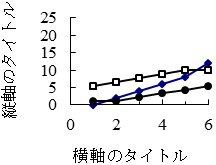
４．本文の書式

本文のフォントは英数字も含め明朝体10.5ptとしてください。また，句読点は「，」「。」を使用してください。

５．図・表・写真のキャプション

　図・表・写真のキャプションは，以下の例のように記載し，フォントはゴシック10.5ptとし，ハイフンおよび図番号は半角としてください。また，本文中の図‐1や表‐1，写真‐1などの記載もキャプション同様にフォントをゴシック10.5ptとしてください。

表‐1　津久戸大橋第１橋の諸元



図‐1　図キャプション配置

写真‐1　写真配置の例

６．送りがな・技術用語集について

　原稿執筆の統一を図るため，「送りがな・技術用語集」ファイルがダウンロードできるようになっています。「送りがなや技術用語」は，この慣例に準じますので原稿執筆の際にはご確認をお願いいたします。なお，「原稿内での表現の統一を図る」などの理由で，【送りがな・技術用語】以外の用語につきましても，査読時に変更をお願いする場合がございます。あらかじめご了承ください。

７．書式フォーマット

　原稿書式のフォーマットは変更せずに使用してください。特に余白は論文集作成の際に原稿が途中で切れてしまうなどのトラブルとなりますので変更しないでください。

８．著作権譲渡書

　原稿完成時に著作権譲渡書をご提出ください。論文集への掲載は，原則として著作権譲渡書を提出いただく必要があります。詳しくは執筆要領の著作権に関する項目をご確認ください。

参考文献

1) 飯田太郎，神楽花子：プレストレストコンクリートの力学的性能，プレストレストコンクリート，Vol.1，No.2，pp.20-25，2005.11

2) 飯田太郎：プレストレストコンクリートの耐久性評価，プレ ストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム論文集，Vol.19，pp.225-231，2010.10

3) 日本道路協会：道路橋示方書・同解説 IV 下部構造編，p.110，1996.4

１２３４５６７８９０１２３４５６７８９０１２３４５６７８９０１２３４５６７８９０１２３４５

２

３

４　　　　　**余白は変更しないでください。**

５

６

７

８

９

１０

１１

１２

１３

１４

１５

１６

１７

１８

１９

２０

２１

２２

２３

２４

２５

２６

２７

２８

２９

３０

３１

３２

３３

３４

３５

３６

３７

３８

３９

４０

４１

４２